

| Minami Kyushu University Syllabus |  |         |     |         |      |        |         |                |   |
|-----------------------------------|--|---------|-----|---------|------|--------|---------|----------------|---|
| シラバス年度                            | 2022年度   | 開講キャンパス |     | 都城キャンパス | 開設学科 |        | 子ども教育学科 |                |   |
| 科目名称                              | 子どもと自然   |         |     |         |      | 授業形態   | 講義      |                |   |
| 科目コード                             | 750055   | 単位数     | 2単位 | 配当学年    | 1年   | 実務経験教員 |         | アクティブ<br>ラーニング | ○ |
| 担当教員名                             | 遠藤 晃   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業概要                              | <p>本講義では「共生」をキーワードにSDGsの視点から、様々な自然環境、生物間相互作用、自然と人間の軋轢と共生などの内容を学ぶとともに、子どもの感性を引き出し、子どもの問題解決能力を育成する教師（大人）の在り方について学び、教師としての素地形成を目標とする。その際、人間の進化から人間という生き物の習性について理解を深める。</p> <p>内容は科学的なものに留まらず、社会や歴史、文化、心理など多面的横断的な視点に立ち、アクティブラーニングと教科横断的な学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿など学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容と、自然のなかの学びを関連づけながら、講義を進める。</p> |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 関連する科目                            | 子どもの野外レクリエーション、子どもと園芸、生活科、理科、教科教育法（理科）、ESD・環境教育論、ESD・環境教育演習、エコロジエ入門、環境問題演習   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業の進め方<br>と方法                     | 授業中は、知識を最初に学んだ上で、思考する時間、共有する時間を設け、課題レポートで毎時間の思考を表現する。また、講義の始めに、前回のレポートを数編紹介し、解説を加えることで理解を深める。さらに、実際に野外に出てアクティビティを行うことで、体験・活動と知識・理論を融合させ、実践的な知識へと高めていく。   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第1回】                     | 1:到達目標とテーマ：<br>・社会的背景（SDGs）、子どもと自然に係る法律、子どもの自然体験の現状について理解する。   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第2回】                     | 2:自然体験で育まれる力：<br>・青少年の体験活動等に関する意識調査（自立性、自己肯定感など）から読み解く。  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第3回】                     | 3:自然のなかで育まれる力：<br>・幼稚園教育要領にみられる「自然」、スウェーデン森の幼稚園の事例から学ぶ。  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第4回】                     | 4:子どもの自然体験と大人の関わり方：<br>・科学的、寄り添い方、褒め方、保育士の在り方（森の幼稚園の事例）について理解する。   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第5回】                     | 5:科学のプロセスを考える：ルソーの自然教育、「アクティビティ①鳥の観察」と鳥と植物の良い関係  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第6回】                     | 6:ヒトという生物①：DVD「人類誕生」（NHK）の視聴とレクチャー<br>・好奇心の意味、探究で育む力（総合的学習の事例）を人類の進化（多種共存、絶滅、生残）と関連づけて理解する。  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第7回】                     | 7:ヒトという生物②：DVD「人類誕生」（NHK）の視聴とレクチャー<br>・コミュニケーションについて、人類の進化（集団の形成、道具作り、感覚、脳の発達、集団形成、情報伝達）と関連づけて理解する。  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第8回】                     | 8:ヒトという生物③：DVD「人類誕生」（NHK）の視聴とレクチャー<br>・論理的思考や差別について、人類進化（自然のなかで適応進化、交雑と遺伝子、道具作りと論理的思考、睡眠、社会、人種）と関連づけて理解する。   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第9回】                     | 9:コミュニケーション①：<br>・人種差別、自然の癒し効果について理解する。<br>・アクティビティ②：「植物に触れる」と植物同定   |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第10回】                    | 10:コミュニケーション②：<br>・複数の人が対話しながら同じ目標を目指すことの意味を体験的に学ぶ。<br>・アクティビティ③：「みんなで創る」  |         |     |         |      |        |         |                |   |
| 授業計画<br>【第11回】                    | 11:ヒトという生物④：群れる生物、共感する生物、集団同一性<br>・最新の脳科学を踏まえ、人間の「共感」する能力について理解する。   |         |     |         |      |        |         |                |   |

|                     |  |
|---------------------|--|
| 授業計画<br>【第12回】      | 12: 私たちにとっての自然（水について）①: 多面的な視点からみる<br>・「水」について、自然環境や生態系サービス、社会問題など、多面的な視点があることを学ぶ。   |
| 授業計画<br>【第13回】      | 13: 私たちにとっての自然（水について）②: in, about, から for Natureへ<br>・「水」に纏わる社会問題について理解し、for Natureの視点を持てるようになる。   |
| 授業計画<br>【第14回】      | 14: 私たちにとっての自然: 生態系サービスと for Nature<br>・自然からの恩恵「生態系サービス」について学び、for Natureに必要な資質・能力について理解する。  |
| 授業計画<br>【第15回】      | 15: まとめ: 自然に学ぶ意味<br>・for Natureの実践事例に触れ、自然に学ぶ意味を改めて考える。  |
| 授業の到達目標             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自然と関わる意味と現状を理解する</li> <li>・身近な自然を教育に活用する意味・目的を理解し、指導者の適切な関わり方を身につける</li> <li>・自然を利用するだけのユーザーに留まらず、for Natureの観点から思考・判断し、行動できる</li> <li>・論理的に思考し表現したレポートを作成し、期限までに提出できる</li> <li>・生態系の持つ関連性・相互性の概念や進化の視点から生き物としての人間を捉え、教育に活用することができる</li> </ul> |
| 学位授与の方針<br>(DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)   |
| 授業時間外の学修<br>【予習】    | 講義終了後に、復習と予習を兼ねた課題・レポートを適宜課す（1時間程度）。また、終了時に提示される課題については、次回の講義までに準備をしてくる（1時間程度）。課題は主にユニバに掲示しレポートもユニバから提出する。不明な点は、担当教員に随時相談すること。   |
| 授業時間外の学修<br>【復習】    | 講義終了後に、復習と予習を兼ねた課題・レポートを適宜課す（1時間程度）。また、終了時に提示される課題については、次回の講義までに準備をしてくる（1時間程度）。課題は主にユニバに掲示しレポートもユニバから提出する。不明な点は、担当教員に随時相談すること。   |
| 課題に対する<br>フィードバック   | 課題、毎回のレポート、最終レポート等は提出または評価の後、解説をする   |
| 評価方法・基準             | 最終レポート(50%)ならびに課題・レポート(50%)を評価対象とする。   |
| テキスト                | テキストは使用せず、適宜資料を配布する。   |
| 参考書                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヒトはどのようにして作られたか」山極寿一著 岩波書店</li> <li>・「生態系ってなに? 生きものたちの意外な連鎖」江崎保男著 中公新書</li> <li>・「森林と人間 ?ある都市近郊林の物語」石城謙吉著 岩波新書</li> <li>・「森の力 -育む、癒やす、地域をつくる」浜田久美子著 岩波新書</li> </ul>   |
| 備考                  | 欠席した場合でも、資料を受け取り、課題を確認して期限までに提出すること。   |